

令和2年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

岐阜県立海津特別支援学校

学校番号

111

自己評価

学校教育目標	<p>児童生徒がもつ可能性を最大限に伸ばすことができるように</p> <p>(1) 児童生徒一人一人の障がいの状況や、発達段階等に応じたきめ細かい教育を行う。</p> <p>(2) 仲間と共にとくましく、明るく生きる力を育む。</p> <p>(3) 一人一人が社会自立に必要な基礎的・基本的な知識・技能を培う。</p>
評価する領域・分野	◇「安心安全な教育活動・学習活動」「保護者・地域との連携」
現状及びアンケートの結果分析等	<p>多くの項目で、おおむね良い評価を得ている。特に昨年度は教職員の指導に関する項目や授業に関する項目でこれまで最も評価がよかった。一方なかなか評価が改善されない項目は、「教育方針や指導の内容を分かりやすく伝えている」や「自己評価を保護者へ分かりやすく伝えている」であった。様々なことを保護者に伝えているつもりでも十分伝わっていないことがうかがえる。</p> <p>昨年3月から、新型コロナウイルス感染症予防措置として、学校が休校になっている。5月末まで休業の予定であるが、その間、WEB会議システムを利用した配信授業や再開後の感染予防対策など課題が山積みである。安心安全な学校生活を送ることができるようなこれまでにない対策を一丸となって行っていく必要がある。</p>
今年度の具体的かつ明確な重点目標	<p>コロナウイルスの感染拡大により、昨年度3月から今年度5月末まで学校が休業となっている。県のガイドラインに沿って、6月以降の教育活動が安全に、安心して行えるようにする。その上で、児童生徒一人一人の自立に向けた教育活動を行う。その際、様々なことについて保護者へ分かりやすく丁寧に伝えていく。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・徹底した感染防止策を講じる。 ・オンラインを使った配信授業の整備、充実を図る。
重点目標を達成するための校内組織体制	<ul style="list-style-type: none"> ・主事会 ・企画委員会 ・各部会 ・各分掌会 PTA役員会 ・学校保健安全委員会
目標の達成に必要な具体的な取組	<ul style="list-style-type: none"> ・校内研究を凍結し、研究を担当していた学習支援部は、オンライン授業の整備、充実を軸足を置き、休業中や分散登校中の配信を行う。 ・健康安全部を中心に、施設設備の消毒、給食等における感染予防について対策を講じる。 ・生徒支援部は、登下校における感染防止やスクールバス運行にかかわる業務がスムーズにいくように計画する。 ・教務部は、感染リスクのある調理学習や歌唱、対面で行う授業の年間計画の見直しを行う。 ・すぐメール等を利用して、保護者に適時に連絡を行う。
達成度の判断・判定基準あるいは指標	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者からの意見・感想 ・学校評議員等からの意見 ・部内・校内における教員相互の事後評価
取組状況・実践内容等	<ul style="list-style-type: none"> ・学習支援部を中心に学校休業中(4～5月)にオンライン授業を配信した。 ・健康安全部を中心に学校全体で清掃・手洗い・消毒等の感染予防対策を

	<p>徹底した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教務部を中心に、学校の教育計画を見直し、感染リスクのある活動を延期や中止とした。
評価の視点	評価
<p>① 学校生活のあらゆる場面での感染症対策を徹底し、安心安全な学校生活を送れる体制づくりができたか。</p> <p>② 密にならない環境づくりの中で効果的な教育活動を行うために、オンラインでの配信やWeb会議システムを使った会議等を実施することができたか。</p> <p>③ 感染症対策を取りながら、児童生徒の社会自立に向けた教育活動が展開できたか。</p>	<p>Ⓐ B C D</p> <p>A Ⓑ C D</p> <p>A Ⓑ C D</p>
成果・課題	総合評価
<p>○職員が一丸となって、登校から下校までのあらゆる場面で新型コロナウイルス感染症予防に取り組み、感染者を出さずに教育活動を行うことができた。</p> <p>○感染予防対策が、児童生徒及び職員にも徹底された。</p> <p>○iPad等の整備がすすみ、授業に積極的に活用されるようになった。</p> <p>●ただし、その活用頻度や効果的な使い方については、職員によって温度差がある。</p> <p>○学校休業中のオンライン授業の配信、始業式や全校集会におけるWeb会議システムを利用した各クラスへの配信、他校との交流や会議の開催など、密を避けるためにリモートで効率の良い教育活動を行うことができた。</p> <p>●校外学習や調理学習、企業内作業学習の中止など、新型コロナウイルス感染症にかかわって、教育活動にどうしても制限が出てきた。</p> <p>●コロナ禍において、感染症対策やICTの充実を優先し、全校研究については1年間凍結したことにより、全校研究がストップし、授業を見合ったり、授業について話し合いをしたりなど教員の資質向上のための取組が十分にできなかった。</p>	A Ⓑ C D
来年度に向けての改善方策	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナウイルス感染状況を見ながら、引き続き感染症対策に取り組んでいく。 ・感染の状況によっては、オンライン授業等がより効果的にできるような教材や実施方法について考えていく。 ・iPadを利用した効果的な授業や働き方改革につながる教材づくり等についてどの教員も行えるように研修を行う。 ・授業研究を行いながら、児童生徒にとって必要な支援が行われているかを確認し、児童生徒の自立につながる授業や支援方法について検討し、授業改善を行う。

学校関係者評価 (令和3年2月書面開催にて実施)

<p>意見・要望・評価等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・感染症対策を念入りに講じ、子どもたちと活動をする姿が感じられる。オンライン、タブレット等をする中で学び、経験が広がり、新しい挑戦ができる年度でもあった。 ・学校の教育活動が保護者の理解の上で行われ、保護者も協力的であることがよくわかった。 ・感染症の問題もあるが、同年代や地域の人々との交流を是非行ってほしい。
